

ご挨拶



2018年6月の評議員会で会長に選出していただいた遠藤と申します。前会長の佐原氏同じ一期生です。行動科学を専攻し、卒業後はテレビ岩手という日本テレビ系列のローカル局でほとんど報道部に所属していました。大学で心理学と社会学に触れたこと。また人文社会科学部という学際的な勉強の方法に触れたことで、テレビ報道などという「なんでも屋」を要求される職場では大変役に立ちました。またドキュメンタリーを製作していますが、番組作りという極めて人間臭い仕事に、人社での4年間の経験は一生の財産になっています。

今、大学を巡る環境は厳しさを増しています。一番端的な例は予算の削減です。教員の数もかなり減っていて先生方の負担は私たちが学生だった「大昔」よりもかなり増しているようです。地方大学の文科系学部に対する中央官庁からの視線は厳しくなっています。理工学部や農学部が大切なことは言うまでもありませんが、だからといって人社や教育の存在がないがしろにされて良いというものではありません。今年、人文社会科学部の卒業生、森谷浩一さんが東証一部上場企業パイオニアの社長に就任しました。また教育学部の先輩、若竹千佐子さんは「おらおらでひとりいぐも」で芥川賞を受賞しました。こうした華やかな舞台だけでなく、大学での経験を直接的に、あるいは間接的に職業生活に生かしている卒業生はたくさんいると思います。

岩手大学、そして人社の素晴らしさ、大切さを一番よく知っているのは卒業生です。私たちの大切なふるさとが逆風にさらされている今だからこそ、同窓会は縁の下の力持ちとなって大学を支えていかなければなりません。

佐原会長は30年余りにわたって七友会会長として種々の行事への出席や、会報発行、会の運営に尽力されてきました。そうしたひたむきな努力に心から感謝します。新しく重責を担うことになった私は、副会長、理事たちと力を合わせて、会員の交流の機会を増やして、できるだけ若い世代の同窓生の参加を促したいと考えています。また、2021年は同窓会発足40周年の記念すべき年となります。それに向けて同窓会全体を盛り上げて、学部の応援団として力を発揮したいと思います。

何よりも皆さんのお力を借りなければ何もできません。ぜひご協力を賜り、大学を元気にしていきましょう！ よろしく願いいたします。

岩手大学人文社会科学部同窓会
七友会会長 遠藤 隆